

連載
48
地方民鉄紀行
文・写真
松澤美穂

松澤美穂

文·写真

左手には有明海の海岸線

右手には雲仙うんせんの山々

絵になる景色のその先は

歴史の舞台・島原しまばらの街

島原鉄道株式会社



時 節柄、なごしのおおらえ「夏越大祓」のぼの上り旗に茅ちの輪わ
が設置された境内。島原鉄道諫早駅いさはやの

近くにある諫早神社は九州を守る神々などを祀る。半年間の厄を払い、この夏を無事に越せることを願って茅の輪をくぐり拝殿へ、今日一日、お膝元を散策しますとご挨拶。

列車に間に合うように諫早駅へと向かう。

基本1時間に1本の運行

JR諫早駅と同じ駅ビルに組み込まれている島原鉄道諫早駅。2018年に改築開業した駅舎部分も、まだまだ新しさが残り、駅というより小さなホテルのロビーのよう。そんな落ち着いた空間に、列車を待つ人たちが次々と集まってくる。

改札を抜けると、もちろんそこはホテルではなく普通のホーム。待っていたのは黄色い1両編成の列車。シートのほとんどは4人掛けのボックスシートで、乗り込んだ客でほぼ満席になる。乗客は観光客と地元の人が半々といったところ。

諫早駅を出発した列車は本諫早駅、幸駅、小野駅と進んで行き、各駅で地元の人が乗り降りしていく。佐賀鍋島藩神代領領主・鍋島氏の陣屋跡がある神代（鍋島邸前）駅、サッカーボールのモニュメントがある多比良駅。途中下車したい気持ちになるけれど、ぐっと我慢。通勤通学の時間帯を除き、基本的に1時間に1本の運行である島原鉄道。思い付きで途中下車してしまうと、目的地到着が大幅に遅れてしまう。目的地・島原駅までは1時間12分の列車旅を予定している。

島原城への近道とは？

車窓からの景色を眺めつつ、うつらうつらしているうちに、無事、島原駅到着。駅を出ると、正面に島原城が飛び込んでくる。さっそく城へ！と向かうその前に、まずは腹ごしらえ。事前に目星をつけておいた、名物・島原そうめんが食べられるお店に向かう。

島原そうめんはコシが強く、長く煮込んで煮崩れしにくいのが特徴。そのためランチメニューには温かいにゅうめんも並んでいる。とはいえ、少し歩けば汗の噴き出す暑さ。にゅうめんには食指が伸びず、冷たいそうめんを注文。デザートにはこれまた島原名物の「かんざらし」まで付いてきて大満足。

お店を出て島原城のお堀まで歩き、どこから中に入るのか探していると、「島原城へ徒歩の近道」と書かれた案内板を発見。道を確認すれば「堀に入る」とある。目の前にある堀の中にはいろいろな植物が生い茂っているけれど、その多くはどうみても「蓮」に見えらる。沼地・湿地に咲く蓮に覆われた堀に入る？ 橋を渡るのではなく、入る？ 不思議に思いながら案内表示に従って歩いていくと、堀に入るのだらかなスロープが出現。スロープに続く道は一部を雑草に浸食されつつ、向かい側の石垣まで続いている。付近の堀の水は枯れているみたいだけれど、道を外れたら雑草の沼にはまってしまいそう。夏を謳歌する天敵・昆虫たちの気配も盛大にする。びくびくしながら一気に石垣まで、堀を歩き渡る。堀の中を歩く、なかなかできない経験だけど、帰りは別のルートを探そう。



ビジネスホテルのロビーのような諫早駅（上）に対し、城の一部のような島原駅（下）。



諫早神社の夏越の大祓では3カ所に茅の輪が設けられ、現在・過去・未来の厄が払えるとか。

島原鉄道

【しまばらてつどう】



諫早駅から島原港駅まで 24 駅 43.2km を 1 時間
16 分でつなぐ。大三東駅は「日本一海に近い
駅」として観光地になっている。

「堀に入る」の道案内の後ろの堀の中は、蓮らしい葉が生い茂っている。



島原そうめんデザートのかんざらし。

島原の歴史に思いを馳せる

島原城天守は明治時代に解体され、今あるのは昭和の時代に再建されたもの。中は歴代領主に関する資料等を展示する資料館になっている。もちろん島原・天草一揆に関する資料も豊富に展示されていて、知識が大幅に修正・アップデートされる。島原・天草一揆といえは天草四郎、キリシタンの反乱という印象が強い。けれど実際は、厳しい年貢の取り立てといった圧政に耐えかねた農民の反乱という面も大きかった。乱の終結後、責任を問われた当時の島原藩主は切腹も許されず、斬首になっていったとは知らなかった。

資料を見ながら天守最上階まで登ると、そこは展望台になっている。島原鉄道島原駅の方を見ればその先の海まで、反対側に回れば、行きの列車の窓からは雲で見えなかった雲仙の山々が、どうにか顔を出しているのが見える。周囲に高い建物がないため、四方がよく見渡せる。

元々はもっと敷地が広がった島原城。見晴らしの良い立派な天守も約4万石の島原藩の城としては豪華すぎるものだったらしい。城の建設費は領民たちへのしかり、島原・天草一揆の原因の一つになった。天守からの見事な眺めを前に、複雑な気持ちになる。

天守を出て、今度は堀に入らず橋を使って堀を渡る。周囲の住宅地の一角には、道の中央に水路が引かれた当時の武家屋が残っている通りもある。袴姿の武士がふらりと出てきそうな風情ある通りを、足早に通り返ける。なぜなら、列車の時間が迫っている。

待ち時間は心のデトックス！

汗だくで島原駅に戻り、諫早行きの列車に乗り込む。目的地は「日本一海に近い駅」と言われる大三東駅。

島原駅から約10分、屋根のない開放感たっぷりの駅ホームに降りる。向かいの海側、島原方面のホーム柵には、願い事が書かれた黄色いハンカチが吊るされている。薄曇りだった空は、いつのまにか晴れ渡り、青い空の下に青い海が広がり、誰もいないホームで黄色のハンカチが風にはためく。数年前に飲料水のCM撮影に使われて以降、人気の観光地になったというのも納得の景色。

一通り写真を撮り終わっても、次の列車が来るまで50分近くある。周辺を見て回ろうかと駅を出てはみたものの、あまりの暑さにすぐにギブアップ。50分、駅で待つことを決めて、諫早方面行きのホームにある屋根のついた小さな駅舎のベンチに座る。

風があるおかげで日陰は結構涼しい。ずっと汗が引いていく。座ったまま向い側を見渡せば、ホームにぽつんと置かれたベンチとその背後に広がる有明海。かすかな波音とハンカチを止める金具が風に鳴る音が混ざり、ヒーリングミュージックさながら。車で来た観光客が手早く写真を撮って去っていく。そんなに急いではもったいない。次の列車が来るまでどうやって時間を潰そうかと悩んでいたことを棚上げ、そんな風に思う。遠くから踏切の音が聞こえてくる。「日本一海に近い駅」の待ち時間は、意外なくらい心地よいデトックスタイムだった。



大三東駅のホーム。有明海の向こうに対岸の熊本県が薄ら見える。

島原城天守から見た雲仙岳（上）と島原城下に残る武家屋敷通り（下）。



堀に入るスロープ。雑草に覆われた道が石垣へと続いている。